

4)河川連続性（タカハヤ）

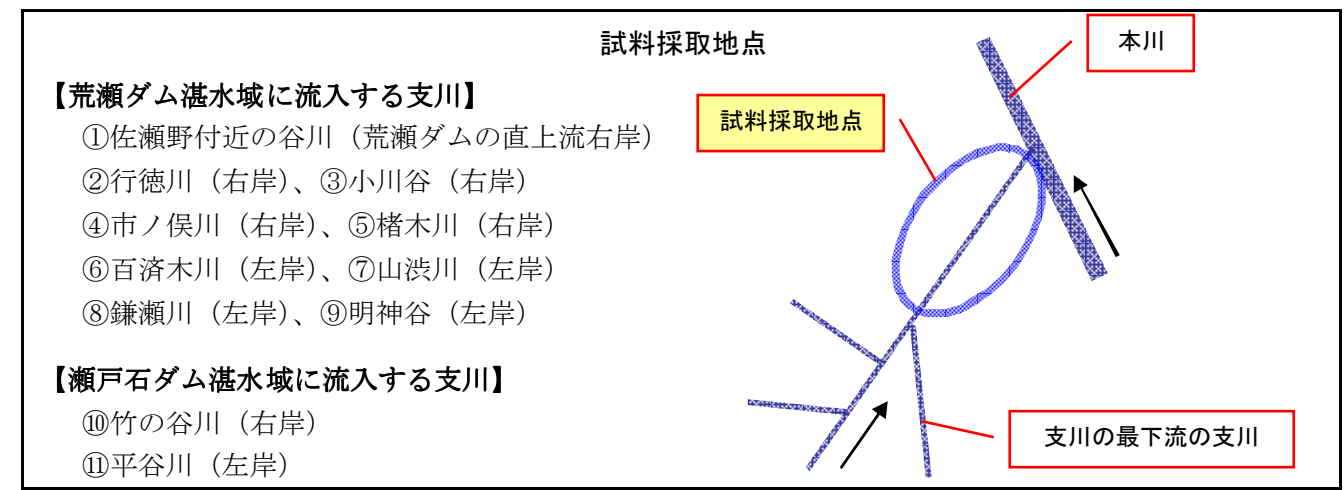
(1) 経緯及び目的

昨年度は、ダム湛水区間に流入する支川に生息すると想定されるヤマメを対象として、その生息状況の把握のための調査を行った。しかしながら、確認された数量が少ないこと、放流個体であることから、十分な分析が困難であることがわかった。

そこで、十分なサンプル数が見込め、かつ放流もされていないタカハヤを新たな指標種として設定し、荒瀬ダム撤去前の遺伝的解析に供する基礎試料確保を目的とした「タカハヤの遺伝的解析に供する試料採取調査」を実施した。

(2) 調査地点

調査地点は、以下に示す荒瀬ダム湛水域に流入する支川 9 地点、コントロールとする瀬戸石ダム湛水域に流入する支川 2 地点の計 11 地点とした（次頁の図を参照）。ただし、支川の最下流の支川が合流した後から本川合流区間までの間で調査する。



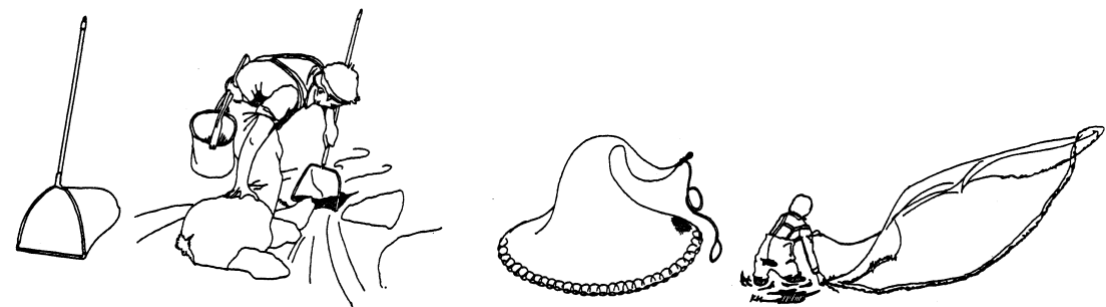
(3) 調査時期

非出水期の水位が低下し、堰や床固の直下流の淵にタカハヤが留まっているために確認し易い平成 23 年 12 月 12～14 日に実施した。

(4) 調査方法

1) 試料採取調査

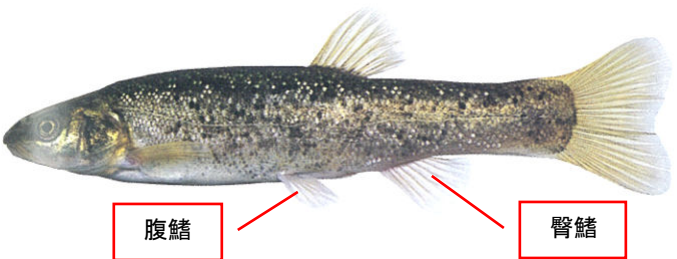
堰や床固の直下流の淵（S 型の淵）や河岸に植生が繁茂している水際などを対象に、タモ網により魚類を捕獲し、その中からタカハヤを 10 個体以上選別する（注：30 個体確保を目標とする）。また、平瀬が存在する場所では、投網を打ち魚類の捕獲を行う。



タモ網による捕獲

投網による捕獲

採取したタカハヤの腹鰭あるいは臀鰭から、数 mm 角をハサミで切り取る。切り取った鰭の一部は、100% エタノールで保存し持ち帰る。鰭を採取した個体は体長を計測後に放流する。但し、体長が小さい稚仔魚の場合は、個体をエタノールで固定した。



タカハヤの腹鰭及び臀鰭

2) 試料の整理

持ち帰ったサンプルを調査地点ごとに一まとめにしてバイアルに入れ、下記の事項を記載したラベルを貼り保管する。

ラベルへの記載事項

■ 調査地点名（支川名）
■ 調査実施年月日
■ 採集したサンプ番号
■ 採集した体長の平均体長

(5) 調査結果

採集個体数を支川別に下表に示した。

表 支川別の採集個体数

No.	支川名	採集日	採集個体数
①	佐瀬野付近の谷川	平成 23 年 12 月 12 日	11
②	行徳川	平成 23 年 12 月 12 日、14 日	27
③	小川谷	平成 23 年 12 月 12 日	13
④	市ノ俣川	平成 23 年 12 月 12 日	13
⑤	楮木川	平成 23 年 12 月 13 日	16
⑥	百済木川	平成 23 年 12 月 13 日	11
⑦	山渋川	平成 23 年 12 月 13 日	30
⑧	鎌瀬川	平成 23 年 12 月 14 日	12
⑨	明神谷	平成 23 年 12 月 13 日	16
⑩	竹の谷川	平成 23 年 12 月 13 日	11
⑪	平谷川	平成 23 年 12 月 13 日	30

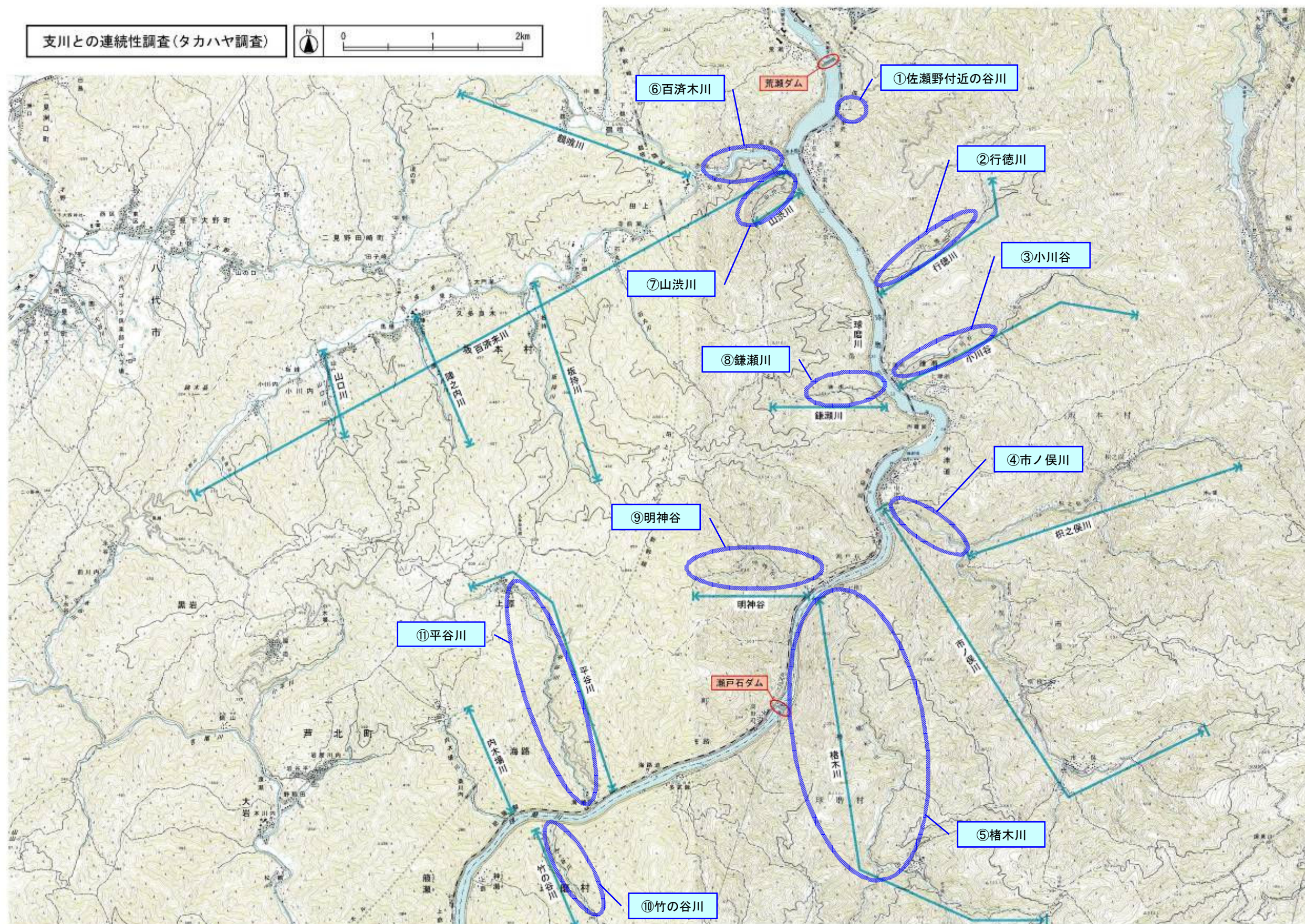


図 試料採取地点の位置図

※この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図(坂本、中津道)を背景図として使用したものである。